

平成 28 年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日 時 平成 28 年 8 月 29 日（月）
但馬分科会 10:00～11:15
豊岡市分科会 11:20～12:20

場 所 豊岡市役所 3 階 庁議室

出席者 但馬分科会 9 名中 8 名
豊岡市分科会 欠席者なし

欠席者 但馬分科会（豊岡病院組合理事）

事務局 豊岡市（政策調整課長、政策調整課長補佐、政策調整係主任）

関係市町 養父市（欠席）
朝来市（総合政策課主査）
香美町（企画課主幹）
新温泉町（企画課長）

1. 但馬分科会

分科会長 年 1 回の会合ですが、この但馬定住自立圏共生ビジョンの策定や変更する場合はこの懇談会の幅広い構成メンバーの皆さんのご意見で協議をしていただくことでこの懇談会の意義でございます。これから変更の説明がありますが、それから皆様方からの忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願ひします。それでは変更について説明をお願いします。

事務局 <事務局説明>

委員 山陰海岸ジオパーク推進事業について、香美町について前年度から事業費が減額されていますが、この辺の内容が分かればお知らせください。

香美町 把握しておりません。

委員 変更案 P. 3 に共生ビジョンの期間が書いてあり、平成 24 年度から平成 28 年度となっていますが、平成 29 年度以降は見直しをされるのでしょうか。また、どのようなスケジュールで行われるのでしょうか。

事務局 平成 28 年度がビジョンの最終年度となりますので、今後、どのような取組みができるか関係市町と協議をさせていただきたいと思ひます。そのなかでこれまでの効果や課題を把握し、平成 29 年度以降の 5 年間に実施する内容を取りまとめていきたいと考えています。スケジュールはビジョンに係る取組みを取りまとめて来年の 2 月頃を目途に懇談会を開催させていただき、委員の皆さんのご意見をいただき、平成 29 年度からのビジョンを策定したいと考えておひます。

委員 変更案 P. 4 都市機能の集積状況なのですが、欄外に「※括弧内は豊岡市旧 5 町に存在する施設」と分けて書いてありますが、何か意味があるのでしょうか。

事務局 意味は特にありません。豊岡市は但馬全域の部分と豊岡市の部分と 2 本立てでやっていくということがありまして、豊岡市の区域について、あえて括弧書きで記載させていただいています。

委員 そういった場合、括弧で書くことに意味がありますか。旧豊岡市と合併前の旧5町との取り扱いが計画上、意味合いが違うということでしょうか。

事務局 特に定めはありません。もし、これでは分かりづらいということがありましたら、内部で協議させていただいて変更させていただこうと思います。

委員 意味がないのであれば、すでに合併した豊岡市でありますので、敢えて分けて書くことで変な誤解を招きかねないと思います。

事務局 ちなみに、但馬分科会とは関係ありませんが、32 ページ以降の豊岡市区域というのがあります。参考にご紹介させていただきますと、中心地域というのは旧豊岡市を表して、周辺地域というのは旧5町の区域を表しています。多くの町が合併したことにより、定住自立圏に取り組むということができましたが、他の町がある関係でこのような表記になっています。合併後、10年経っていますのでこういった記載がどうかということもありますけど、計画上、こういうページもございませぬ。先ほどご指摘のあった括弧書きについては、切り離して考える必要があるということであれば、内部で検討させていただきたいと思います。

委員 14 ページの産業振興のところですが、事業費は市町ごとに計算されて積み上げの数字が記載されていますが、この中で実施する事業として、各市町単独であるものもあれば、関係市町で連携して実施するものもあると思います。その中でここには散策モデルコースの案内看板設置ということが書いてあるんですが、その他にジオパーク圏域の1市2町でこれまでこういった取り組みがなされているか、事業の内容的なものがこの中では分かりにくいという思いがしています。これまで連携してやってきたというものがあれば、分かるようにすべきだと思います。全体を通じて中心市並びに関係市町が特別交付税という財源措置が有利になるということで、そのあたりのことは分かりますが、ただ、財源的に有利になるということで財源だけを確保したということだけでは圏域を組んでやってきたという意味がないと思います。そういった有利な財源を利用して市町独自で取り組むものもあれば、むしろ圏域ということであれば連携して実施するものがあるはずだと思いますし、平成24年度に策定して平成28年度が最終年度となっていますけれど、そのあたりは何かしらまとめたものがあるべきかなと思います。

事務局 具体的な成果も含めて、次回には分かるような形でお示しさせていただこうと思います。

委員 それに関連してですが、豊岡市は京丹後市とDMOの枠組みでされていますが、特に観光のことがほとんどだと思われませぬ。ジオパークを活かした取り組みは各市町で行っているんですけど、できればこういった枠組みの中でDMO的な取り組みをして、自らツアーを組んだりしてお客さん呼び込むこともできるはずだと思います。そういった取り組みも今後の課題としていくべきだと思っています。

委員 バスの関係で観光の話にもつながりますけど、皆さんご存じのとおり、来年3月に北近畿自動車道が日高まで開通ということになりますし、東西は山陰近畿自動車道が新温泉町で進んでいます。ここ数年は、大きく但馬の交通インフラの体系が変わってくると思いますので、このビジョンの中では地域の路線バスの関係ということで名目が挙がっていますが、色々な交通網を広域的に考えていかなければ

と思います。事業者の立場からどのような提案をさせていただこうかということにもなりますが、交流人口の拡大ということもこの観光面でも大きな目的となつてこようかと思います。大きな話なので、なかなか具体的ににならないかと思いますが、方針としてお考えいただければと思います。

もう一点、(委員)がおっしゃっていましたが朝来市が昨年度「住みたい田舎」ナンバーワンになっておられ、これは移住するに魅力的な田舎だということで都心部からの利便性、移住者への対応、支援制度、いわゆる老後の医療介護の体制の充実において評価されたということです。定住自立圏ということを考えるうえでは非常に大きなキーワードになってくるかと思います。今後、そういったことも考えていかないといけないと思います。

委員

商工会も但馬の商工会が一つになって9月30日に産業フェアというのを豊岡で開催することになり、今年で3回目になります。この主たる目的は企業のマッチングともう一つ大きな目的として主として地域の高校生に頑張っている企業を見せよう、紹介しようということで始まりました。ところが、2年やってみましたが浜坂高校はバス2台で2学年に参加してもらっていますが、肝心の豊岡が学校任せになっていて、1校あたり10人程度と参加が少ないといった状況です。毎年、教育関係にもお願いしていますが、なかなか生徒の動きが悪いです。今年は中学生も呼ぼうということで中学生、高校生に知ってもらうことで、いずれ大学を卒業しても但馬には光る企業があったと覚えていて、戻ってきて定住人口を増やしてもらいたいと思います。観光ということで交流人口も増やしていけないといけません。定住人口ということで地元の知っている子が戻ってきて、生活してもらうことが一番大事だと思います。9月30日にフェアが始まります。できれば、その辺りのところも定住自立圏で応援いただければありがたいと思います。但馬は本当にポテンシャルの高い企業がたくさんあります。世界に打って出る企業もありますし、住んでいる人が自信をもって、誇りをもって暮らせることが大切だと思います。

分科会長

出石でも小学校で自分の住んでいる町を調べようということで、小学生がまちに出かけて行って歴史を調べたりしています。郷土を愛する心を育むということで小学校で終わりではなく、中学校、高校と続けていくことが大切だと思います。大学を卒業して戻らないのは勤める企業がないということですが、但馬には受け入れる企業が本当に少ない気がしています。

委員

ただ、ハローワークの統計とかを見ていると求人はたくさんあります。戻りたいと思える若者が希望する企業がないということです。但馬のハローワークは人手不足で悩んでいます。ただ、自分の意とする企業がなかなか但馬にはないということです。また、知らないということもあると思います。本当に優れた企業はあります。バネとかもスカイツリーで使用されているものもありますし、そういう情報が不足しているんじゃないかということで、それぞれの市町で小中高で一貫してやっていかないといけないと思います。

委員

定住を増やすということで地元で勤めたい場所が少ないということもそうですが、どういう企業があるか知らないこともあると思います。高校を卒業する時に但

- 馬にはこんなに素晴らしい企業があるということで、就職の選択肢にもなるでしょうし、大学を卒業して就職する時に、「但馬にはこういう企業があったな」ということで戻って就職してみたい会社を知ってもらうことが大切だと思います。そのために産業フェアをされていますが、参加する人が少ないということなので、行政も応援して但馬にはこういった優秀な企業があるといったことを中学でも高校でも知っていただくということをやっていかないといけないと思います。
- 委員 ジオパークもまさにそこだと思います。但馬の人でジオパークを本当に知っておられるのかと思います。学生に聞いても、名前は聞くけど実際は何かは知りません。であれば、地元できちんとした教育がなされていないと思います。これは但馬全域で小中高で知らせていくことで誇りが生まれることにつながるのではないかと思います。
- 分科会長 但馬の定住を考えていくうえで、教育委員会を通じてでも対策を練っていただきたらと思います。
- 副分科会長 大学に行っても戻ってくる環境がないと難しいと思いますし、魅力のあるポテンシャルのある企業があっても生活していかないといけないので、賃金体系が伴わないとなかなか戻ってくるのに難しいのかなと思います。あと、金融機関との関係ですが、朝来市には但陽とか京阪神的な金融機関が和田山にできるそうですが、後継者問題に支援していこうという金融機関のスタンスがあるそうで商品として売っていこうとしておられます。金融機関と連携して一緒に進めていかないといけないと思っています。
- 分科会長 出石の弘道小学校の校友会は会員もたくさんいて、会から学校に補助をしています。先生も研究費がないということで副読本を作るのに困っていると聞きます。弘道小学校であればできるのに中学校、高校になったら費用がなくなってできないそうです。学校教育との一貫性ということで、その点も充実してほしいと思います。
- 委員 P T C Aということがあり、地域も学校に入っていこうということがありますが、企業の立場からなかなか地域に入りにくいです。地域と学校との密接な関係ができれば良いと思います。浜坂高校では地域の企業が研修とか、企業の紹介をする場を持っていただいて、地元の企業のすばらしいところを紹介させていただいています。ただ、校長先生によっては納得していただける方もあればそうでない方もあり、なかかなうまくいかないこともあります。学校に地域が入っていくということはとても大切なことだと思います。そういった仕組みを上手に作っていったら良いと思います。
- 分科会長 但馬は教育費をたくさん使って、就職する先はみんな大都市ですから、良いところばかり大都市に取られてしまっていると思います。
- 委員 但馬で梨の生産をされています。香住では県下で一番生産が多いですが、後継者問題で悩んでおられる農家が多くなっています。これまで栽培をやめられてところは木を切ってしまい、梨園を野山に変えてしまわれるんですが、何十年もかけて成木になったことを考えるとそれは大変もったいない話だと思います。単に、子どもたちに後を継いで欲しいということだけでなく、今は田舎暮らし志向で来ら

委員

れる方もありますので、中には梨園をしてみたいという方もいらっしゃると思います。これからの課題として、梨の栽培の後継者づくりとして色々な方策を考えていくべきではないかなと思います。平成 29 年度以降の新しい計画策定の際にはそういうこともご検討いただけたらと思います。

ふるさとづくり協会で今年度から県民局からお金をいただいて、田舎暮らしの事業を再開してもらいました。先日、バスによる移住体験ツアーを開催しました。都市部から何組か募集して、今年は南但を回りました。7 組募集して、6 組参加してもらいました。色々なご意見がありましたが、大変喜んで帰ってもらいました。「自然の中で子供を育てたい」とか、「終の住処として孫と一緒に暮らしたい」とか、「退職後の生き方を見つけない」とか、色々な年代の方が幅広く移住を考えておられ、ニーズは幅広いと思いました。

先ほどから、子どもに帰ってきてもらいたいという意見が多くありましたが、親世代の方は子どもに「働く場所がないので帰ってくるな」といったメッセージを送られる方があって、それを聞いた時にはとても悲しい気持ちになりました。せめて、自分たちはここを誇りに思って暮らしてきたということで、「帰ってきてくれたらうれしいな」というメッセージを送れるようにしたいと思いますし、「帰ってこなくていい」というのはやめてほしいなと思います。

分科会長

特にご意見がなければ、これで協議・意見交換とさせていただきます。

2. 豊岡市分科会

分科会長

協議事項について私の方で進めさせていただきます。

まず、「但馬定住自立圏共生ビジョンの変更について」ですが、ビジョンの変更にあたり、懇談会の協議を経る必要があるため、忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。特に、豊岡市区域部分について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

<事務局説明>

分科会長

今の説明を受けまして、質問等がありましたらお出しいただきたい。

<質問なし>

分科会長

意見交換とさせていただきますと思いますが、何かございますでしょうか。

副分科会長

数年前に生物多様性地域戦略を作った時に策定委員に 3 つの高校から 2 名ずつ入ってもらい議論に参加してもらいました。その時に、イメージで大学に行って、たまに豊岡に帰ってきた時に電車で豊岡に近づいた時に「どういう風景が見たいか」、「どんな町だったら帰ってきたいか」といった質問をしたら、「パチンコ屋があったらげっそりする」という答えでした。私も昨日、車で帰ってくると国府を過ぎて豊岡に近づくとパチンコ屋のネオンが迎えてくれて、「なるほど、魅力的でない」と思いました。その他に高校生からは「コウノトリはいてほしい」、次に出たのは「高度医療が充実しているのが大事」、「駅通りが賑やかで行き交う人はハイセンスなファッションであること」、「親子や家族で遊びも含めて何かをする」といった意見を男女共に同じようなことを言っていました。生物多様性の面からでしたけど、高校生が帰ってきたい町というのは案外、みんなイメージを持っていると思

分科会長

いました。機会があれば高校生にも聞いてみることも必要だと思いました。

農業で非常に困っている状況があります。有害鳥獣対策を含めてですけど、色々な施策がありますが、例えば、有害鳥獣対策では区全域を防護柵で囲むというのがあり、要綱ではそれでない認められないというのがあります。私の区は谷が深く、区全域ではとてもできませんので、谷ごとでも囲めるようになればと思います。そうしていかないと、県道とかも走っているので、全体を囲めと言われても到底難しくできません。地形によってできないところもあるので、柔軟に対応してもらえればと思います。

副分科会長

防護柵も山すそに張りますのでシカは入ってきませんが、人間も山に行かないようになってしまいます。山は荒れ放題になって、シカの住みかとなって、土砂災害の危険が出てきます。分かっていますが、やらないといけなくなっていますが、根本的な解決策にはなっていません。

分科会長

設置後の管理が大変だと聞きます。倒木や雪によって補修が必要で、日役をして直さなければいけません。また、高齢化になってきていますので、これからは管理も難しくなってくると思います。

副分科会長

集落で設置するにしても個人負担がありますので、個別に設置する人もあります。材料だけ支給して、自分で施工する場合がありますが、なかなか管理が行き届いていないので錆びたり、村の景観が悪くなっています。コウノトリの郷公園周辺でもたくさん張ってありますが、景観が悪くなっています。どちらにも良いものを考えて欲しいなと思います。柵で囲って山の世界と人間の世界を分けてしまうというのはいかがなものかと思います。それよりも殺してしまうのが良いと思いますが、農林水産課に相談しても免許とか猟友会に対するお金とか色々ややこしいようです。そこがもっと簡素化されたり、後始末がもっと楽にならないかと思います。狩猟班に任せてばかりでなくて、自分たちも捕獲できるようになればいいんですけど、そこに至るまでが色々ややこしいと思います。

分科会長

次の5年間の計画に農業分野も記載する検討が必要かもわかりません。公共交通について、今年から豊岡駅と出石に路線バスでつないでもらったんですけど、そういうことはどこもして欲しいものかなと思います。例えば、浜坂駅でも湯村に行くのにすごく待たないといけないという状況があるか分かりませんが、バス路線を維持する助成や補助があれば、地元の住民にとってもメリットがあると思いますが、公共交通では広域的に考えていかないといけないと思います。

副分科会長

昨日、栃木に行っていたんですけど、首都圏は公団も民間も相互乗り入れがすごいですね。

分科会長

但東の高橋地区から福知山に行くバスがあれば便利だと思いますし、また、但東に帰ってくるバスもあれば便利だと思います。福知山駅で降りたら、但東に帰ってこれるといったことも考えられると思います。広域に連携できるようになれば考えられると思います。

委員

バスも色々な交流ができています。北近畿北部の鉄道とバス会社について、京都の会社と乗車券を一つにして、丹後鉄道を使って天橋立や舞鶴に行くといったことをやっています。地元の方もそうですが、色々な地域からやってきていただく方

にも利用していただくことが大切だと思います。城崎であれば外国人の方ですとか、利用いただく範囲も広がりつつあります。行政にも関わっていただけてますが、その前段としてまず、民間でやっていこうという動きもあります。行政が入ってもらえたら補助金とかを期待できるので、そういったことも共生ビジョンで考えていく必要があるのではと思います。バスの関係であれば補助金もありますが、バスならバスでこの分野といったことだけになっていて、より広域的な取組みをしようと思えば補助金を使いにくくて、JRと連携するようなメニューもありませんので、そんなことができるようなメニューの補助があればいいなと事業者の立場からはそう思います。

分科会長
委員

広域的な面が見えてくれば、共生ビジョンとしても面白いと思います。

バスの運転手の確保が難しく、今では募集を出し続けてもなかなか希望される方が来ていただけません。全国には運転手が足りないのが計画的に運休している地域もあるそうです。どの産業もそうだと思いますけど、労働者をどう雇っていくかということがすごく大事だと思いますし、移住とか定住にもつながっていくのかなと思います。運転手は全国的な人材不足で都市部でも取り合いになっていて、公営と民間ではバスで賃金の格差があれば高いほうに流れていってしまいます。地方は都市部よりも賃金が安いので、どんどん都市部に流れてしまい、地方のバス会社は人手不足になっています。2種免許を取得する方もだんだん減ってきていますので、50代から60代の方に頼りながらやっていますが、若者の免許取得も減っていることも原因であると思います。

委員

少子化は痛切に感じています。平成23年度と28年度の会員数の比較をすると半分以下に減っています。豊岡市は転勤族も動いていますので、受け入れによっては色々な分野で活躍する方が増えてくると思います。商店街が賑やかになり、そういったところが増えれば、Iターンでやってきたいと思える方が増えるのではと思います。交通事情もよくなってきていますので、若者も豊岡を魅了する分野を少しでも意識が変わってくれればと思いますし、そこにターゲットを置かないといけないと思います。

結婚しない人が多いというのも現実ですし、帰ってきて家にいる人は結婚しない人が多いですし、まず、結婚する人が増えないと少子化対策にもならないと思います。

近隣の中心市ということで福知山市が挙がっていますが、福知山市がどんどん変化しているなと思います。魅力的だと思いながら関心を持っています。誰から見ても、「おっ！」と思えるようなことをしていかないと豊岡に定住してもらう若者が帰ってこないと思いますし、戻ってきてもらうことを期待しています。先ほどの話で運転手をたくさん雇っても使う人がいなければいけないし、将来的に誰が私たちが介護してくれるのだろうかという不安もあり、人口減少ということを感じています。

委員

若い人に「どんなことをしたら定住する人が増えると思う？」と聞きましたら、保育料を安くしたらということでした。若い人が住みやすいまちづくりをして欲しいという声がありました。

副分科会長

先日会議に行っていました。千葉県のかすみがら市の学校給食は無農薬米で小中学校で無料と聞きました。無農薬なので子どもに健康であり、変なものを食べさせたくないということをやっておられて、しかも地産であってすべて無料です。すごく思い切ったことをやっていて、母親からすると、とても魅力的に見えると思います。3食のうち学校給食の占める割合というのは結構大きくて、その会議に出席していた韓国の方は、韓国ではほとんどの学校で給食は無料ということでした。どこの学校に行かすかということをお母さんが決めるのに決め手は「良い献立」だそうです。豊岡市もお金はかかりますが、農業振興、健康、子育てということで連携して取り組んでみることも必要かなと思います。

分科会長

他にご意見がなければ、これで協議・意見交換とさせていただきます。